

「公印省略」

1 農林試第 1680 号
令和元年 12 月 24 日

各関係機関団体の長

殿

各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和元年度病虫害発生予察特殊報第 2 号について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

特殊報第 2 号

- 1 病虫害名 キク茎えそウイルス
- 2 学名 *Chrysanthemum stem necrosis orthospovirus* (CSNV)
- 3 寄生植物 シクラメン

4 発生の経過と概要

平成 31 年 4 月、県内の施設栽培のシクラメンにおいて、新葉にモザイク症状およびアザミウマ類の寄生が確認される株が見られた。当所において RT-PCR 法による遺伝子診断を実施したところ *Chrysanthemum stem necrosis orthospovirus* (CSNV) が検出された。

さらに令和元年 8 月、同一ほ場において新葉に輪紋、えそ、退緑黄化症状を呈する株が確認され同様に CSNV が検出された。

また、九州・沖縄農業研究センターに送付し診断を依頼したところ、本ウイルスである旨の診断結果が得られたことから、CSNV による病害と判断した。

5 国内での発生状況

CSNV による病害は平成 18 年に広島県のキクで初めて発生が確認された。福岡県では平成 22 年にキクで確認されているが、シクラメンでの確認は初めてである。

6 病徴

- (1) 葉にモザイク、輪紋、えそ、退緑黄化症状を示す（図1、2）。
- (2) 本病は、インパチエンスえそ斑点ウイルス (*Impatiens necrotic spot tospovirus* : INSV) によるシクラメンえそ斑紋病に酷似するため、病徴のみによる判別は困難である。

7 発生生態

- (1) 本ウイルスは、主にミカンキイロアザミウマにより媒介される。本種の1齢幼虫が罹病植物を吸汁することで本ウイルスを獲得し、永続伝搬する。一方、経卵伝染、土壌伝染および種子伝染はしないことが知られている。
- (2) 本ウイルスによる病害は、トマト、ミニトマト、ピーマン、トウガラシ、キク、トルコギキョウ、アスター、ガーベラ、ジニア（ヒャクニチソウ）などで報告がある。

8 防除対策

- (1) 施設の開口部（サイド、換気部など）は、目合い0.4mm以下の防虫ネットで被覆し、本病原ウイルスを伝搬するアザミウマ類の施設内への侵入を防止する。
- (2) 施設内に黄色粘着板等を設置しアザミウマ類の発生の有無を確認する。
- (3) アザミウマ類の防除を徹底する。また、薬剤の使用にあたっては、抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避ける。
- (4) 一度発生すると被害が拡大するため、発病株はアザミウマ類が分散しないように注意して直ちに除去し、土中に埋める等適切に処分する。
- (5) 施設内外の除草を徹底することで、アザミウマ類の生息場所を減らす。
- (6) 栽培終了後は、施設内を蒸し込み、高温や絶食にすることによりアザミウマ類を死滅させ、周囲の分散を防止する。



図1：新葉のえそ、退緑黄化症状



図2：新葉の輪紋症状

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

